

卷 頭 言

古来、日本の國は自然と人間とが有機的に一体化し、融合しあつて、日本の文化を形成してきた國であるといわれている。

しかるに今日ではこの關係がくずれ、美しい自然環境が破壊され、生活をおびやかす公害問題が発生しているのである。

公害問題の中には、河水・海水・空気の汚染、食品・薬品などによる障害、交通災害、廃品・塵埃公害等々さまざまであつて、これらの問題を避けて生活することは出来ない状態である。

当研究室はこの公害問題を主題として、それぞれの研究員の学問領域から、独自の方法で検討を加え、国民福祉に貢献したいと意図して特集号を発刊することになつたのである。

たとえば、公害発生の原因についても、各方面から見ることができよう。もっぱら政治の責任と考える人もあるであろう。機械産業優先とか経済政策の誤りであると見る人もあるであろう。また、敗戦後日本の当然歩まなければならなかつた運命であると考え人もあるであろう。また、一般国民は公害の被害者であると説く人もある。しかし、われわれ各人は被害者でもあり、加害者でもある。自動車による空気汚染は自動車所有者のみでなく自動車を利用する者すべてが加害者であり、毎日の生活の中で塵埃を出さない人は皆無であれば、一人一人は塵埃公害の加害者でもある。

日本の自然には限度がある。この狹隘な国土に一億以上の人口がひしめきあい、年々人口は増加し、機械産業・化学工業が発達していくと、やがては美しい国土の樹木も生物も絶滅してしまう時期が来るのではなからうかと心配するのは筆者のみではないであろう。

現今の公害の種類の指摘や原因の探究のみでなく、この公害を皆無にさせることは不可能としても、少しでも減少させるためにはどんな手段・方法があるか、政府の公害防止の対策は勿論のこと、一億の国民全体が各自如何にすべきかについて論じていただいた。